

1 ひとりに寄り添う新たな防災・減災の施策を

近年、風水害や地震等の災害が各地で発生し、地方自治体による適時・適切な防災・減災対策が一層求められている。よって次の項目について問う。

1 「災害ケースマネジメント」の構築を。

災害ケースマネジメントは、被災した一人ひとりに寄り添い、何が困っているのかを聞き取り、その上で、保健師・弁護士や建築士などの専門職と連携し、個々の課題に合わせて、様々な手立てを講じて生活再建をサポートする仕組みである。この仕組みを構築することは重要であると考え質問する。

2 子どもの生命を守るために防災ヘルメットの配備を。

子どもの成長に合わせて使用できるコンパクトな折り畳み式ヘルメットが市販されている。現状の防災頭巾では、災害時に鋭利な落下物などから頭を十分に保護することはできず、さらに、防災頭巾の特徴から頭に熱が籠り人の声も聞こえにくく、頭にしっかりと固定されていないため、視界を遮り歩行を難しくする場面もある。

私は2017年3月定例会議・一般質問において、「子どもの防災ヘルメット」の支給を提案した。その際、町長答弁では、「今後、検討事項として、近隣も含めて調査しながら考えていきたい。」であった。町の見解を問う。